

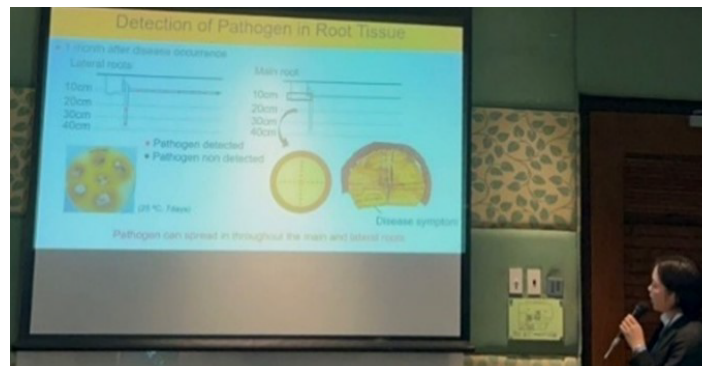
活動内容：国際学会での発表

国際学会を通じて研究課題の原点に立ち返る

高橋 美百合（博士前期課程1年）

渡航先：フィリピン・マニラ

ISSAAS International Scientific Congress and
General Meeting 2023 (2023/11/8-11)



私は、フィリピンで開催された International Society of Southeast Asian Agricultural Sciences (ISSAAS、東南アジア国際農学会) の学術会議で口頭発表を行いました。研究発表は、*Pyrrhoderma noxium* という植物病原性糸状菌（カビ）による病害に関する内容です。本病害は、東南アジアを含む、熱帯や亜熱帯地域で発生し、200種以上の木本植物が宿主植物として報告されています。国内でも南西諸島の街路樹や果樹などで病害発生の報告がありますが、登録農薬がないため、その防除法の確立が求められています。防除法の開発には、それに先立って敵（病原菌）の生態を知ることが大切と考え、罹病した果樹での病原菌の生態を調査しました。発表での聴衆の大半

が、東南アジア諸国の方であることもあり、興味をもってくださったことが伝わってきました。質疑や意見も活発に寄せられ、投稿論文への期待の声もいただきました。今回の発表を通じて、改めて自身の研究の重要性を再認識できました。研究はトライ&エラーが多く、地道な作業の繰り返しも多いですが、今回の学会参加を経て、自分の研究課題の原点に立ち返る良い機会となり、さらにモチベーションの向上に繋がりました。今後は本病の防除へ向けて邁進します。